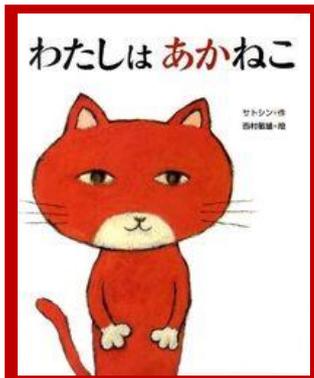


今回のテーマは「ねこ」

ねこの鳴き声「にゃんにゃんにゃん」と「222」の語呂合わせにちなんで、2月22日は「猫の日」です。

今回は、ねこが主人公の絵本を2冊紹介します。



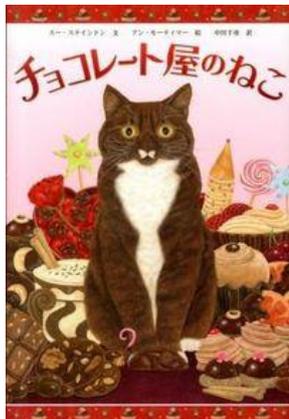
わたしはあかねこ サトシン／作 西村敏雄／絵 文溪堂

主人公のあかねこは、白いねこも黒いねこの両親から生まれました。兄弟たちはみんな白と黒なのに自分だけ赤い色で生まれました。家族はみんな、一人だけ違う色で生まれてきたあかねこのことを「かわいそう」と同情ばかりします。

でも、あかねこは自分の赤い色が大好きでした。そして、みんなと同じがいいのかな?と考えてみたりします。だけど、わたしはあかねこ。そのままの自分がいいと思ったあかねこは「自分らしさをわかってもらえないのは悲しい」と、一人で

家を出ていきます。それからいろんな町で暮らしました。時には、家族のことを思い出して寂しいときもありましたが、ある日旅先で、伴侶となるあおねこに出会います。

このお話の一番の魅力は、主人公のあかねこが自分だけ人と違って、最後まで「そのままの自分が好き」と誇らしげに言えるところです。一人一人の個を尊重することの大切さと、自分らしさを大切にすることで生きる世界が広がっていくということを教えてくれる、心に優しくあたたかく残るお話です。



チョコレート屋のねこ ほるぷ出版

スー・ステイントン／文 アン・モーティマー／絵 中川千尋／訳

これといった名物もない静かでちいさな村に、おじいさんが営むちいさなチョコレート屋がありました。おじいさんが飼うねこはいつもショーウィンドウから外を眺めて、呼び鈴が鳴るのを待っていましたが、めったにお客は来ませんでした。

そんなある日、おじいさんはふと思いついて、チョコレートでねずみを作ってみました。それは、しっぽにピンクの砂糖をまぶしたチョコレートのねずみ。チョコレートねずみのピンクのしっぽをかじったねこは、あまりの美味しさにびっくりして、他の

誰かにも食べてもらいたいと思い、八百屋にこっそりチョコレートねずみを置きに行きました。するとどうでしょう!チョコレートねずみを食べた瞬間、八百屋の店主におもしろいアイデアが思い浮かんだのです。

それからねこはチョコレートねずみをパン屋、食料品屋と次々と置きに行きました。そして、チョコレートねずみを食べたお店の人たちみんなに新しいアイデアがひらめいて…。

この本の巻末にチョコレートの歴史について書かれているページがあります。そこには、「もしチョコレートのねずみが手に入っても、あなたの家のねこに食べさせてはいけません。」と書かれています。ねこにチョコレートを食べさせると病気になってしまうからです。

おじいさんが作ったチョコレートねずみは、このおはなしの世界に生きている特別なねこだけが食べることができる魔法のチョコレートだったのです。